TADOKU JUNIOR　ビアトリクス・ポターのおはなし　★★★☆☆ ふつう　691語

The Tale of Tom Kitten

こねこのトムのおはなし

Beatrix Potter（1907年の本）　**原文そのまま**　朗読：Jenny Lundak

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　お客さんが来るので、お母さんにきれいな服を着せてもらった三びきの子ネコ。ところが庭に出たとたん……。

Once upon a time there were three little kittens, and their names were Mittens, Tom Kitten, and Moppet.

They had dear little fur coats of their own; and they tumbled about the doorstep and played in the dust.

But one day their mother—Mrs. Tabitha Twitchit—expected friends to tea; so she fetched the kittens indoors, to wash and dress them, before the fine company arrived.

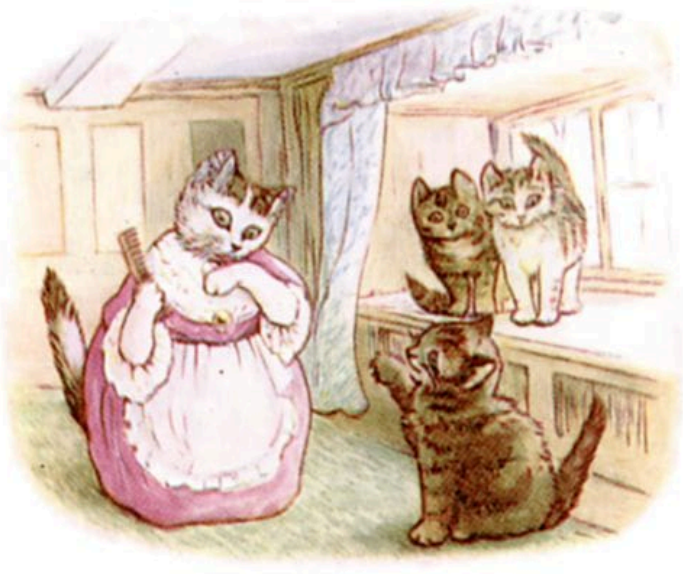




First she scrubbed their faces (this one is Moppet).

Then she brushed their fur, (this one is Mittens).





Then she combed their tails and whiskers (this is Tom Kitten).

Tom was very naughty, and he scratched.

Mrs. Tabitha dressed Moppet and Mittens in clean pinafores and tuckers; and then she took all sorts of elegant uncomfortable clothes out of a chest of drawers, in order to dress up her son Thomas.





Tom Kitten was very fat, and he had grown; several buttons burst off. His mother sewed them on again.

When the three kittens were ready, Mrs. Tabitha unwisely turned them out into the garden, to be out of the way while she made hot buttered toast.

"Now keep your frocks clean, children! You must walk on your hind legs. Keep away from the dirty ash-pit, and from Sally Henny Penny, and from the pig-stye and the Puddle-Ducks."





Moppet and Mittens walked down the garden path unsteadily. Presently they trod upon their pinafores and fell on their noses.

When they stood up there were several green smears!

"Let us climb up the rockery, and sit on the garden wall," said Moppet.

They turned their pinafores back to front, and went up with a skip and a jump; Moppet's white tucker fell down into the road.



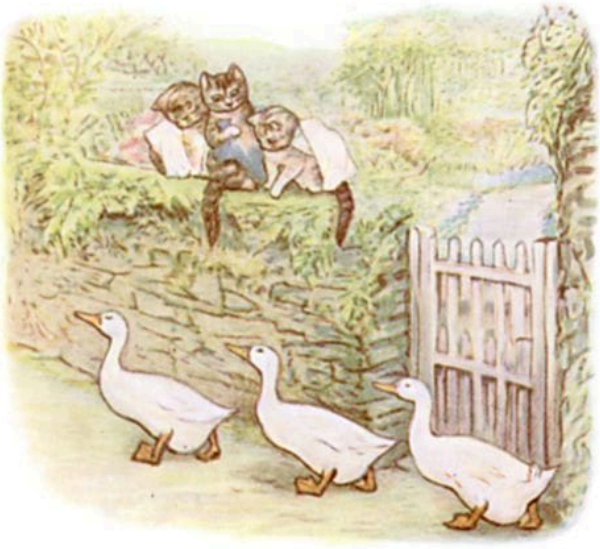


Tom Kitten was quite unable to jump when walking upon his hind legs in trousers. He came up the rockery by degrees, breaking the ferns, and shedding buttons right and left.

He was all in pieces when he reached the top of the wall.

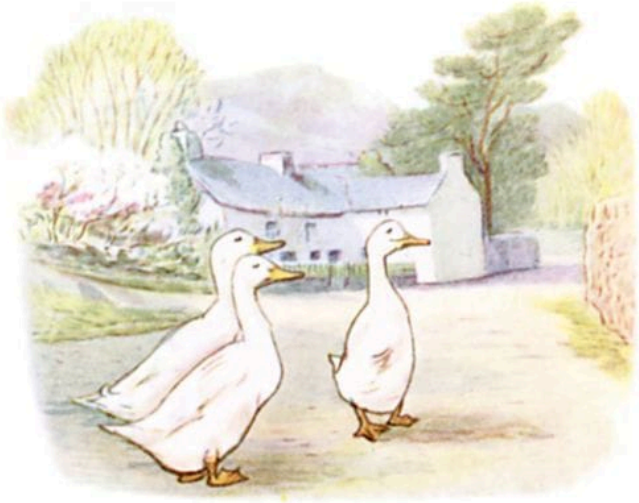
Moppet and Mittens tried to pull him together; his hat fell off, and the rest of his buttons burst.





While they were in difficulties, there was a pit pat paddle pat! and the three Puddle-Ducks came along the hard high road, marching one behind the other and doing the goose step—pit pat paddle pat! pit pat waddle pat!

They stopped and stood in a row, and stared up at the kittens. They had very small eyes and looked surprised.



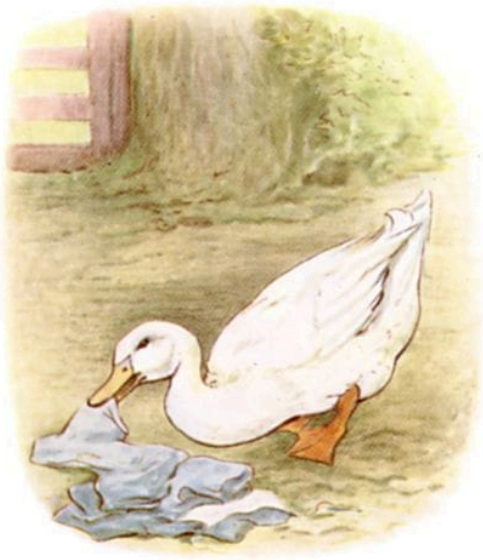


Then the two duck-birds, Rebeccah and Jemima Puddle-Duck, picked up the hat and tucker and put them on.

Mittens laughed so that she fell off the wall. Moppet and Tom descended after her; the pinafores and all the rest of Tom's clothes came off on the way down.

"Come! Mr. Drake Puddle-Duck," said Moppet—"Come and help us to dress him! Come and button up Tom!"





Mr. Drake Puddle-Duck advanced in a slow sideways manner, and picked up the various articles.

But he put them on himself! They fitted him even worse than Tom Kitten.

"It's a very fine morning!" said Mr. Drake Puddle-Duck.





And he and Jemima and Rebeccah Puddle-Duck set off up the road, keeping step—pit pat, paddle pat! pit pat, waddle pat!

Then Tabitha Twitchit came down the garden and found her kittens on the wall with no clothes on.





She pulled them off the wall, smacked them, and took them back to the house.

"My friends will arrive in a minute, and you are not fit to be seen; I am affronted," said Mrs. Tabitha Twitchit.

She sent them upstairs; and I am sorry to say she told her friends that they were in bed with the measles; which was not true.





Quite the contrary; they were not in bed: not in the least.

Somehow there were very extraordinary noises over-head, which disturbed the dignity and repose of the tea party.

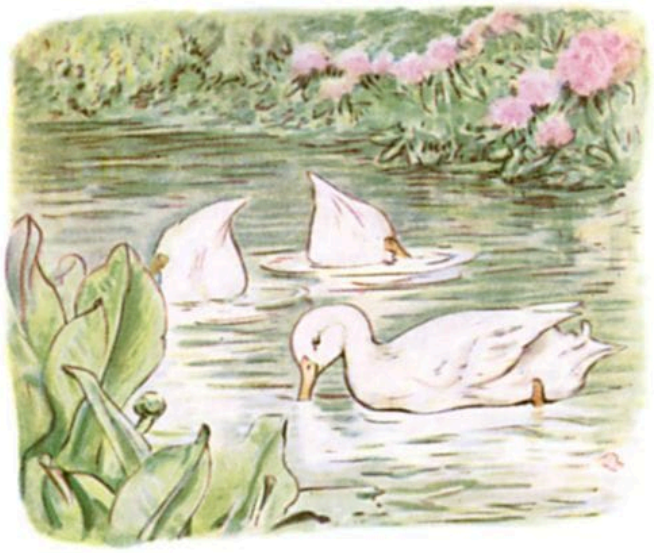
And I think that some day I shall have to make another, larger, book, to tell you more about Tom Kitten!



As for the Puddle-Ducks—they went into a pond.

The clothes all came off directly, because there were no buttons.





And Mr. Drake Puddle-Duck, and Jemima and Rebeccah, have been looking for them ever since.

むかしむかし、三びきの小さな子ネコがいました。名前は、ミトンと、トムと、モペットといいました。

子ネコたちは、自分のかわいい毛皮の上着を着ていました。そして、戸口のところでころげ回ったり、土ぼこりの中であそんだりしていました。

ところがある日、お母さんのタビタ・トウィチットおくさんは、お友だちをお茶にまねくことになりました。そこで、りっぱなお客さんたちが来る前に、子ネコたちを家の中へつれてきて、体をあらって服を着せることにしました。

まず、顔をごしごしあらいました（これはモペットです）。

それから、毛をブラシでとかしました（これはミトンです）。

それから、しっぽとひげをくしでとかしました（これはトムです）。

トムはとてもいたずらで、ひっかきました。

タビタおくさんは、モペットとミトンに、きれいなエプロンとえりかざりをつけてやりました。それから、むすこのトーマスに着せるために、たんすから、上品だけれどきゅうくつな服をいろいろとり出しました。

トムはとても太っていて、大きくなっていたので、ボタンがいくつかはじけとんでしまいました。お母さんは、それをまたぬいつけました。

三びきのしたくができると、タビタおくさんは、バターをぬったあつあつのトーストを作る間、じゃまにならないように子ネコたちを庭に出しました。これが、よくなかったのです。

「さあ、服をよごさないのよ、子どもたち！うしろ足で歩くのよ。きたないはいすて場や、サリー・ヘニーペニーや、ブタ小屋や、アヒルたちには近づかないこと。」

モペットとミトンは、庭の小道をよろよろと歩いていきました。まもなく、エプロンのすそをふんで、鼻からばったりころんでしまいました。

立ち上がると、みどり色のよごれが、あちこちについていました！

「石の庭をのぼって、庭のへいの上にすわりましょうよ」と、モペットが言いました。

二ひきはエプロンを前とうしろ反対にして、ぴょんぴょんのぼっていきました。モペットの白いえりかざりが、道へ落ちてしまいました。

トムは、ズボンをはいてうしろ足で歩いていたので、ちっともジャンプできませんでした。トムは、シダをおったり、ボタンをあちこちに落としたりしながら、少しずつ石の庭をのぼってきました。

へいのてっぺんに着いたときには、服はもうばらばらでした。

モペットとミトンは、トムの服をなんとかまとめようとしましたが、ぼうしがぬげて、のこりのボタンもはじけとんでしまいました。

三びきがこまっていると、ピタ、パタ、パドル、パタ！と音がして、三羽のアヒルが、かたい大通りを一れつになって、足を高く上げて行進してきました――ピタ、パタ、パドル、パタ！ピタ、パタ、ワドル、パタ！

アヒルたちは立ち止まって、一れつにならび、子ネコたちを見上げました。アヒルたちの目はとても小さくて、びっくりしたような顔をしていました。

それから、二羽のアヒル、レベッカとジマイマが、ぼうしとえりかざりをひろって、自分たちでつけてしまいました。

ミトンはあんまりわらったので、へいから落ちてしまいました。モペットとトムも、あとからおりてきました。おりるとちゅうで、エプロンも、トムののこりの服も、みんなぬげてしまいました。

「ねえ！アヒルのドレークさん」と、モペットが言いました。「トムに服を着せるのを手つだってちょうだい！トムのボタンをとめてあげて！」

ドレークさんは、ゆっくり横歩きで進んできて、いろいろな服をひろい上げました。

ところが、それを自分で着てしまったのです！その服は、トムが着たときよりも、もっとドレークさんに合っていませんでした。

「とてもいい朝ですね！」と、ドレークさんは言いました。

そして、ドレークさんと、ジマイマと、レベッカは、足なみをそろえて道を歩いていきました――ピタ、パタ、パドル、パタ！ピタ、パタ、ワドル、パタ！

そこへ、タビタ・トウィチットおくさんが庭へやってきて、服を着ていない子ネコたちが、へいの上にいるのを見つけました。

お母さんは子ネコたちをへいからひっぱりおろして、ぴしゃりとたたき、家の中へつれて帰りました。

「もうすぐお友だちがいらっしゃるのに、あなたたちときたら、人前に出せたものじゃないわ。はずかしいったらありゃしない」と、タビタ・トウィチットおくさんは言いました。

お母さんは子ネコたちを二かいへ上がらせました。そして、言いにくいことですが、お友だちには、子どもたちははしかでねています、と言ったのです。それは本当ではありませんでした。

それどころか、子ネコたちはねてなんかいませんでした。ちっとも。

どういうわけか、頭の上から、なんともへんな物音が聞こえてきて、お茶の会のおごそかで、おだやかなふんいきを、だいなしにしてしまいました。

いつか、もっと大きな本をもう一さつ書いて、トムのお話をもっとしてあげなければならないと思います！

アヒルたちはどうなったかというと――池に入っていきました。

服は、すぐにみんなぬげてしまいました。ボタンがなかったからです。

それで、ドレークさんと、ジマイマと、レベッカは、それからずっと、服をさがしつづけているのです。

たんご と クイズ　こねこのトムのおはなし

kittens 子ネコ	**tails** しっぽ	**buttons** ボタン
toast トースト	**wall** へい、かべ	**hat** ぼうし
Puddle-Ducks アヒルたち	**pond** 池	

Q1 トムのボタンがとれてしまったのは、どうして？

① トムが太っていたから　② アヒルがとったから　③ お母さんがぬわなかったから

Q2 トムの服をひろって、自分で着てしまったのはだれ？

① ミトン　② サリー・ヘニーペニー　③ アヒルのドレークさん

Q3 お母さんは、お友だちに子ネコたちのことを何と言いましたか？

① お出かけしている　② はしかでねている　③ 庭であそんでいる

こたえ

Q1　①　トムはとても太っていて大きくなっていたので、服を着たらボタンがいくつかはじけとんでしまいました。

Q2　③　ドレークさんは手つだってくれるのかと思ったら、服を自分で着てしまいました。トムよりもにあっていませんでした。

Q3　②　お母さんは、子どもたちははしかでねていると言いました。でも本当は、二かいで大さわぎしていたのです。

原田英語の多読ベストジュニア
本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。
haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #14837（Beatrix Potter、1907年）。パブリックドメイン。
挿絵：Beatrix Potter（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Jenny Lundak（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。